

看護基礎教育と臨床のつながぎを考えるー看護基礎教育における取り組みー

○眞鍋えみ子¹、光木幸子¹、倉ヶ市絵美佳²、岡山寧子¹

¹京都府立医科大学医学部、²京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター

看護系大学には、看護サービスの質の向上に向けた研究と国民が求める看護サービスを提供できる人材の育成が求められている。大学が社会の期待に確実に応え、発展を図るための課題として、学士課程卒業生の看護実践能力の向上と基礎教育と臨床との乖離を埋めるための基礎看護教育の充実が指摘されている。

そこで本学では平成 20 年より「看護実践能力プロジェクト」を立ち上げ、学生の看護実践能力の質を保証する仕組みづくり、臨地実習の充実、実習施設との連携の強化等の教育の基盤づくりを検討してきた。その取り組みにおいて、①卒業時の看護実践能力の到達度の「特定の健康問題をもつ人への実践能力」、 「ケア環境とチーム体制整備能力」は実習での経験による差が大きい、②複数患者の受け持ちや多重課題時の対応の経験がない、③臨地実習終了後、就業までのキャリア支援が十分でないことが明らかになった。

これらの課題に対し、平成 21 年度からは「看護職キャリアシステム構築プラン(文科省)」の事業として、附属病院との連携をさらに深め、卒業前の 4 年生から新人、一人前の看護師や教育指導者の能力向上の道筋を示す教育プログラムの開発、生涯にわたるキャリアパス支援の体制作りに取り組んでいる。これら基礎教育での取り組み（一人前看護師育成、キャリア支援、附属病院との人事交流）と卒後の臨床研修を紹介しながら、看護基礎教育と臨床とのつながぎについて皆様と意見交換を行いたい。